



天理市文化財だより Vol.34

特集1

埴輪を復元する



特集2

令和4年度発掘調査速報

2024.3 天理市教育委員会 文化財課

考古遺物修復工房で実施した盾形埴輪の復元作業

埴輪を復元する

～考古遺物修復工房での復元作業

柳本立花遺跡 盾形埴輪の出土状況

奈良県の文化財（歴史文化資源）の保存と活用の拠点として、天理市^{そまのうち}杣之内町に開村した「なら歴史芸術文化村」の文化財修復・展示棟では、「仏像等彫刻」「絵画・書跡等」「歴史的建造物」「考古遺物」の4つの分野の修復工房が公開されています。

今回は天理市教育委員会文化財課^{こうこいぶつしゅうふくこうぼう}が考古遺物修復工房で令和5年度に実施した古墳時代の埴輪の復元作業をご紹介します。

柳本立花遺跡 盾形埴輪の復元

考古資料は割れてバラバラになった状態で出土することがほとんどですが、そのままの状態では元の形が分かりにくいものです。破片を^{せつごう}接着剤で接合し、破片が足りないところは石膏などを充填して元の形に戻すことを「復元作業」と呼んでいます。復元することによって考古資料の本来の姿をイメージしやすくなり、展示会などで幅広く活用することもできるようになります。

今回復元を試みたのは天理市柳本立花遺跡で出土した盾形埴輪。同種の埴輪のなかでも初期の例として知られる貴重な資料です。



復元前の盾形埴輪

①最初はバラバラ



②接合関係を確認



③復元案を検討



破片の接合関係を検討した結果、盾面の大きさや文様構成、埴輪の口径と段構成がある程度推定できることが判明しました。盾形埴輪の他の出土例も参考にして復元案を検討し、これをもとにして作業をスタートしました。

④基底部から復元開始



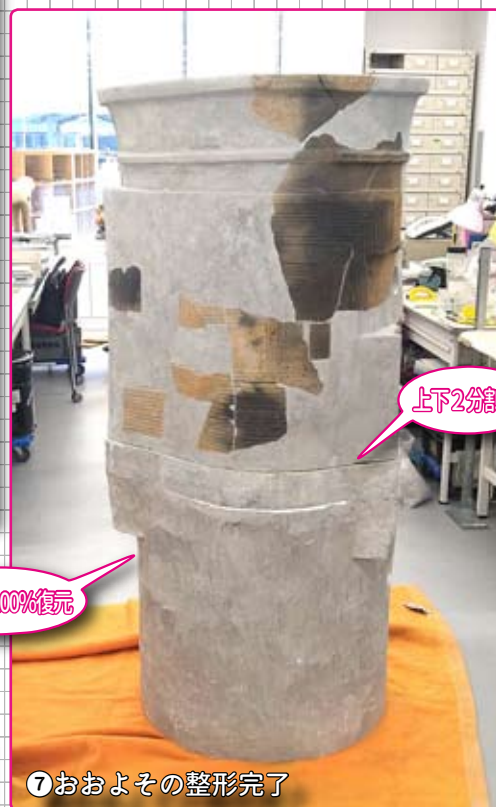
⑤ペースト状にした石膏を盛り上げ



今回の復元案は埴輪の全高が155cmに達しますが、制作・運搬・収納を考慮して、あえて上下2段の分割式で仕上げることにしました。破片の場所を確かめながら、全体のバランスを見つつ組み上げていきます。



⑥実物破片と合うように調整



上下2分割式

下段は100%復元

⑦おおよその整形完了

復元案に従って盾面の文様を再現します。彫刻刀やグラインダーも活躍します。



⑧盾面文様を割り付け



⑨盾面の文様をケガキ



⑩彫刻刀などで線刻を再現

⑬完成!!



⑪復元部分を塗装



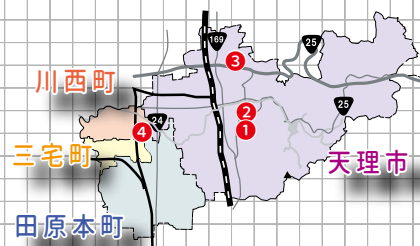
⑫写場で写真撮影

石膏で復元した部分にはアクリル系塗料で彩色します。彩色がすんだら写真撮影して完成です。

令和4年度発掘調査速報

天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。今回は令和4（2022）年度におこなった3件の発掘調査と、天理大学との共同調査1件をご紹介します。

- ① マバカ古墳第3次 ② 東乗鞍古墳第7次
- ③ 樺本辻子池上遺跡第1次 ④ 庵治ツルハタ遺跡第1次



マバカ古墳 第3次

まばかこふん

①

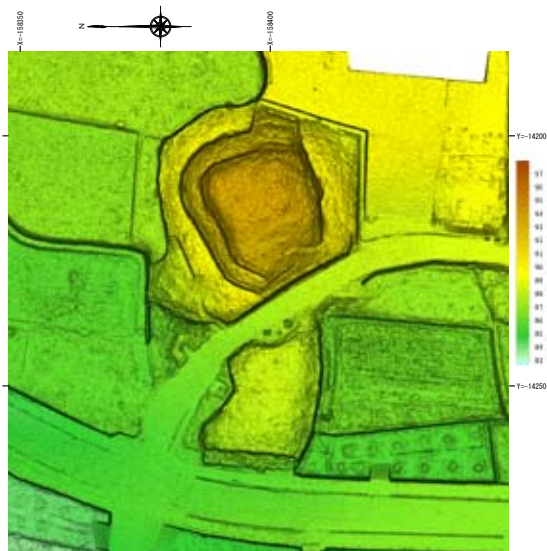


期間 令和4年11月22日～
令和4年12月27日

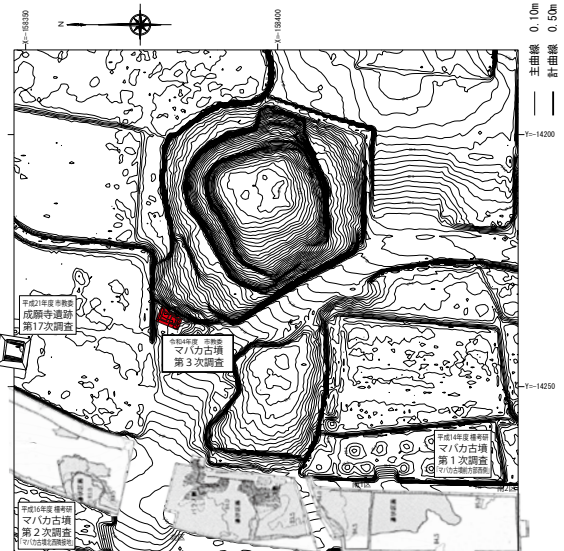
マバカ古墳は天理市萱生町・成願寺町にまたがって所在する前方後円墳で、古墳時代前期前半に築造されたものと考えられています。令和3年度には古墳の地形を把握するための航空レーザ測量を実施し、令和4年度からは古墳の保存に向けた基礎資料を得るため、天理市教育委員会が発掘調査を開始しました。

今回は古墳の北側くびれ部付近で発掘調査をおこなったところ、調査区東寄りを中心に^{こぶし}拳大程度の^{れき}礫の散布を確認し、礫の間からは古墳時代～奈良時代にかけての土器の細片がわずかに出土しました。また、礫群の下層において、墳丘側（東側）に向かって急角度で立ち上がる地形を検出しました。これらが古墳に伴うものかどうかは課題となりましたが、結論を得るには至っておらず、今後の調査の進展が期待されます。





マバカ古墳標高段彩図



マバカ古墳調査区配置図

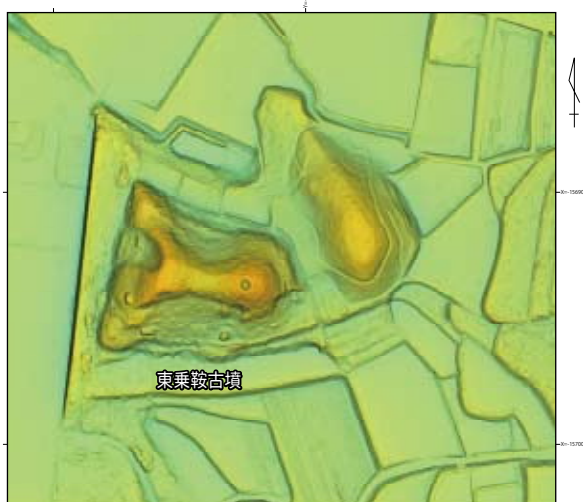
東乗鞍古墳 第7次

天理市教委・天理大学共同調査
ひがしのりくらこふん

②



期間 令和5年2月13日～
令和5年2月25日



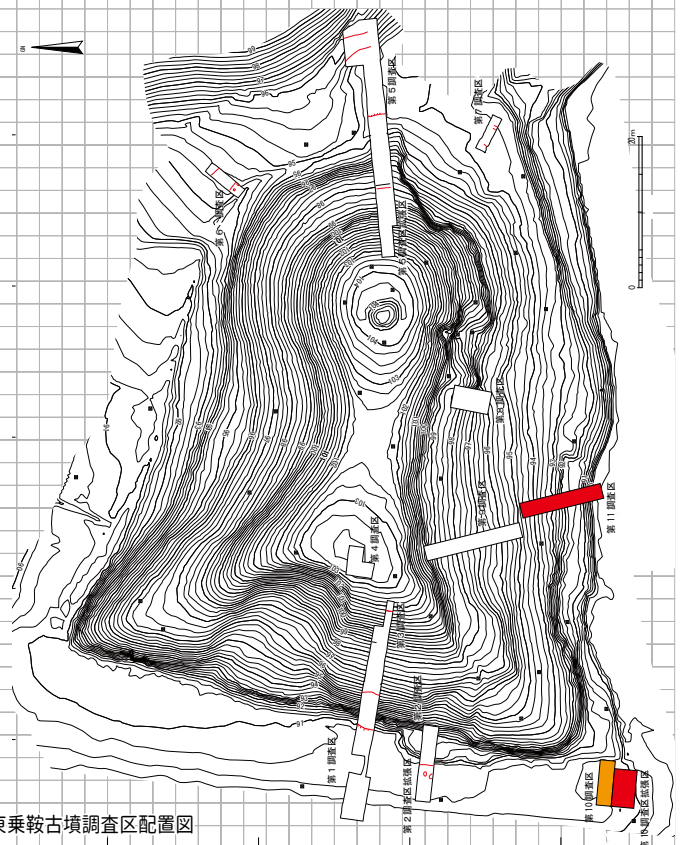
東乗鞍古墳地形起伏図



前方部南西隅角付近の調査

ひがしのりくら おとぎちょう
東乗鞍古墳は乙木町に所在する前方後円墳で、古墳時代後期に築造されたものと考えられています。平成29年度から天理市教育委員会・天理大学が共同で発掘調査に取り組んでいます。今回の第7次調査では、主に前方部の南側を調査しました。

昨年度に引き続いて前方部南西の隅角付近の調査をおこないました。前方部南側の墳丘構造や周濠についても調査を始めており、次年度も継続する予定です。



東乗鞍古墳調査区配置図

機本辻子池上 遺跡 第1次

いちのもとずしいけかみいせき

3



期間 令和4年10月6日～
令和4年11月10日

清掃工場関連施設建設に伴い、この遺跡で初めての発掘調査をおこないました。調査の結果、古墳時代中期～後期の礫敷流路の可能性のある遺構 NR01 を確認しました。

今回の調査で見つかった NR01 は底面や側面、そして付随するテラス状平坦面で多数の礫を検出しています。底面や側面では比較的大きい石材、そしてテラス面では小ぶりの礫が見つっています。

NR01 からは木製品や古墳時代中期～後期の完形品を含んだ土師器や須恵器が多量に出土しています。その他には、奈良時代の土器や斎串、古墳時代の紡錘車、木製祭祀具、縄文時代の石刀、晩期の突帯文土器の他に、石鏃、サヌカイト片、馬歯が出土しています。



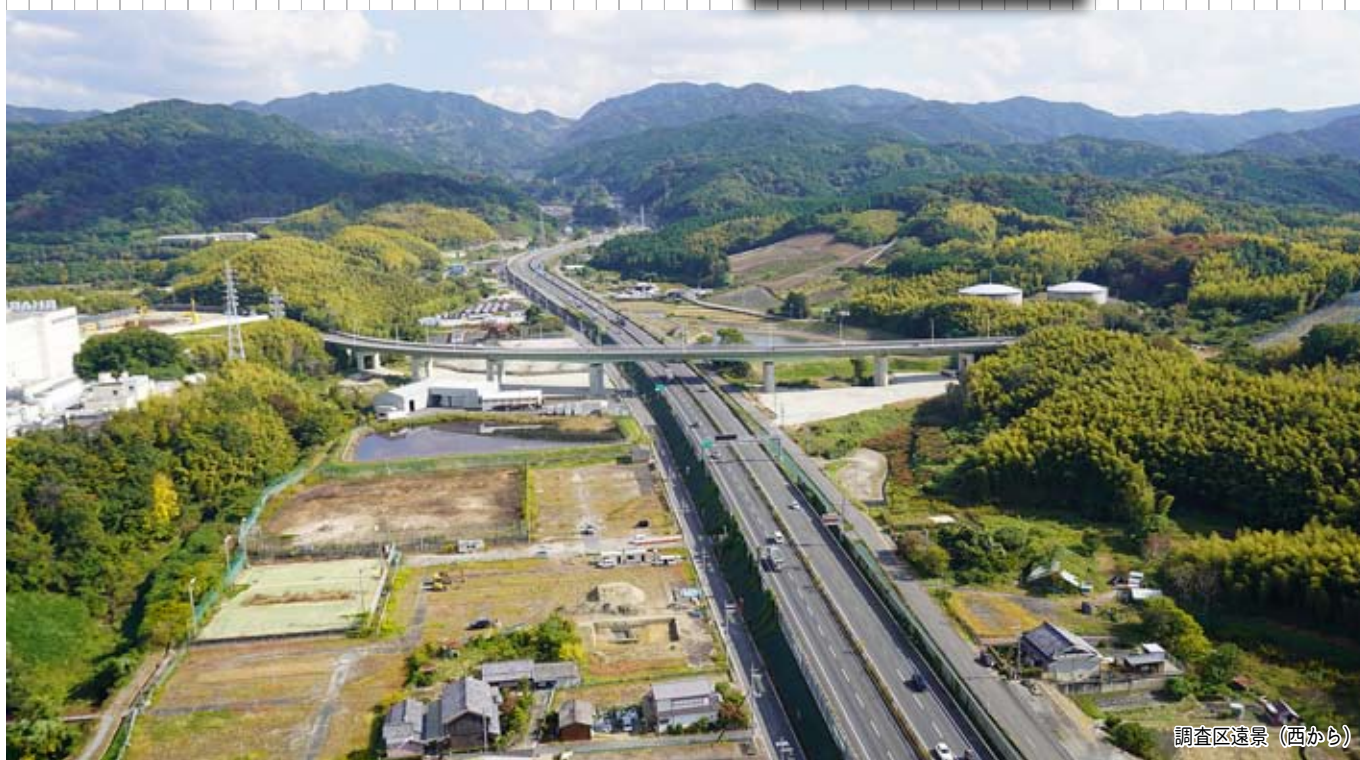
礫敷流路（西から）



調査区全景（上が北）



流路内の遺物出土状況



調査区遠景（西から）

庵治ツルハタ 遺跡 第1次

おうじつるはたいせき

4



期間 令和5年2月1日～
令和5年4月21日

庵治町内でのトラックターミナル建設に伴って未知の遺跡が見つかりました。調査では、弥生時代中期を主体とする大溝2条、
径5m程度の円形竪穴建物状遺構のほか、
溝、井戸、土坑、柱穴などを多数確認しました。

大溝2条は調査区南端付近で確認したもので、ほぼ東西方向に走り、南北に隣接して南側の溝が北側の溝を切っています。いずれも幅約4～5m・深さ約1mを測り、南側の溝からは弥生時代中期後半～末、北側の溝からは同中期中葉～後半の土器類が多く出土しました。円形竪穴建物状遺構は径約6mを測り、弥生時代中期後半の土器類が出土しました。

その他の遺構からも弥生時代中期前半から末にかけての遺物が多量に出土しており、現在整理中です。土器以外では石器類のほか、井戸を中心に木製品や植物種子、獣骨なども出土しています。



井戸内の遺物出土状況



埋設された弥生土器

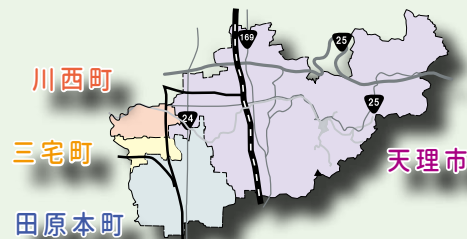


竪穴建物状遺構



大和まほろば 広域定住自立圏

天理市・川西町・三宅町・田原本町は文化財の保存と活用について広域連携による取り組みを推進しています。各市町の文化財の話題をお伝えします。



天理市

善福寺 木造阿弥陀如来坐像が市指定有形文化財に

天理市和爾町にある善福寺は文明9年（1477）創建の浄土宗のお寺です。本堂内にはたくさんの仏像が安置されており、これまでに2躯の木造阿弥陀如来坐像が国の重要文化財と市の有形文化財にそれぞれ指定されています。このほど、別の木造阿弥陀如来坐像1躯が市の有形文化財に指定されました。新たに指定された阿弥陀如来坐像は平安時代後期（12世紀ごろ）の都ぶりの本格的な像で、像の主要部はよく当初の姿を残しています。後世の補修で膝の前部分の形態が変化していますが、これまで大切に守り伝えられてきたことがうかがえます。



■天理市 新指定の木造阿弥陀如来坐像（善福寺）

川西町

下永のキョウ

川西町下永に、西城、東城地区がありますが、両地区で6月第1日曜日の朝に「下永のキョウ」という簡素なお祭りがあります。この時期奈良盆地内で広く行われている「野神行事」の一つです。

まず西城から始まり、藁で蛇をかたどった「ジャ」を野神へ運び、そこで祭典をおこないます。その後すぐに東城に移り、「ジャジャ馬」とともにコモクサ、農具を模した模型を神社から東城の野神に運び祭典をおこない終了します。

※日程は予告なしに変更する場合があります。



■川西町 西城のジャ（左）と東城のジャジャ馬（右）

三宅町

聖徳太子の休憩場所「屏風」

三宅町屏風の筋違道（太子道）沿いに位置する白山神社境内に、表面が平らな大きな石があります。聖徳太子が斑鳩と飛鳥を往来される際、この石に腰掛けて休憩されたという伝承から、「腰掛石」と呼ばれています。また、屏風という地名は、当時村人が屏風を立てて太子を接待したことに由来すると言われており、白山神社の正面にある屏風杵築神社の拝殿には、その様子を描いた絵馬が安永6年（1777年）9月に奉納されています。同神社には休憩の際に飲み水として利用したと伝わる「屏風の清水」もあり、この地と太子とのつながりの深さを感じられます。



■三宅町 聖徳太子の「腰掛石」

田原本町

お家に唐古・鍵考古学ミュージアムを！

田原本町では、令和5年3月に唐古・鍵考古学ミュージアムの展示品などをWeb上で閲覧できる、唐古・鍵バーチャルミュージアムを公開しました。唐古・鍵バーチャルミュージアムでは、展示品の3Dデータを公開しており、普段の展示では見ることができない、土器の底や埴輪の裏側なども観察することができます。また、令和4年に太鼓形埴輪が出土した宮古平塚古墳をCGで再現しました。令和5年8月には、このCGを活用してバーチャル現地説明会をYouTubeでおこないました。アーカイブも残っていますので、ぜひご覧ください。



展示品 3D



現地説明会



■田原本町 唐古・鍵バーチャルミュージアム

なら歴史芸術文化村 考古遺物修復工房体験イベントの有料化について

なら歴史芸術文化村文化財修復・展示棟の考古遺物修復工房で、天理市教育委員会文化財課が平日に開催している体験イベントについては、これまで無料でご参加いただいておりましたが、諸般の事情により令和6年4月開催分より有料となります。申込方法等の詳細はなら歴史芸術文化村ホームページをご覧ください。



Vol.31 まで発行した『天理市埋蔵文化財センターだより』は、Vol.32 から『天理市文化財だより』に変わりました。これからも幅広い文化財の魅力を発信していきます。

発行◆天理市教育委員会文化財課

天理市埋蔵文化財センター

〒632-0017 奈良県天理市田部町441-2

Tel・Fax 0743-65-5720

印刷◆橋本印刷株式会社